

2021年9月13日

南山大学長

ロバート・キサラ 殿

外国語学部英米学科

花木 亨

研究休暇報告書

2021年4月1日から9月10日まで、研究休暇を取得した。そのうちの4月10日から8月10日までは、アメリカ合衆国ワシントン DCにある American University の School of Communication にて在外研究を行った。その成果は以下のとおりである。

1. 現代アメリカ社会について多角的に考察した著書の中の一章「アメリカの物語」はどこに向かっているのか——大統領の語りの変化から」(仮題)を執筆した。これは、オバマ、トランプ、バイデンという3人の大統領たちの就任演説の特徴を確認することによって、アメリカにおける政治的な語りの変化の一端を捉えようとした論考である。
2. 論文「新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用をめぐるアメリカ合衆国における議論——個人の自由と他者への配慮」(仮題)を執筆した。これは、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用をめぐるアメリカにおける議論を整理した論考である。
3. バイデン大統領が4月28日にアメリカ合衆国議会合同会議で行った演説について、東京新聞と中日新聞に寄稿した。
4. 2020年アメリカ合衆国大統領選挙後、新型コロナウイルス感染症拡大後のアメリカ社会の様子を現地で観察した。また、現在、アメリカが置かれている状況について、American University の教員をはじめとする現地の人たちと意見交換した。さらに、ワシントン DC 周辺の博物館、資料館、史跡、記念碑などを訪れ、アメリカの歴史と文化についての理解を深めた。

これらの成果を今後の研究と教育に活かしていく。